

『近畿名勝旅行地図』

大正4年 和楽路屋 37 cm×52cm 関西大学図書館蔵

地図上に書かれた「注意」に、「この図は名所遊覧の便に供へんと専ら見る人の実用便益を考え忠実に製図したり」と説明されている。東は岐阜、名古屋、知多半島、志摩あたり、西は姫路あたり、北は豊岡、天橋立、敦賀あたり、南は和歌山の紀三井寺と高野山あたりまでを含む。附図として「紀伊大和南部図」があり、紀三井寺から大台ヶ原の南側の地図となっている。鉄道線を赤で引き、普通駅は四角で、乗換駅は丸で囲む。道路には、おおまかな里程が記され、歩く人たちにも利用できるように工夫されている。その他、道路上の主要な土地は「都会」と「郷村」が記号で区別される。海路も記載されている。

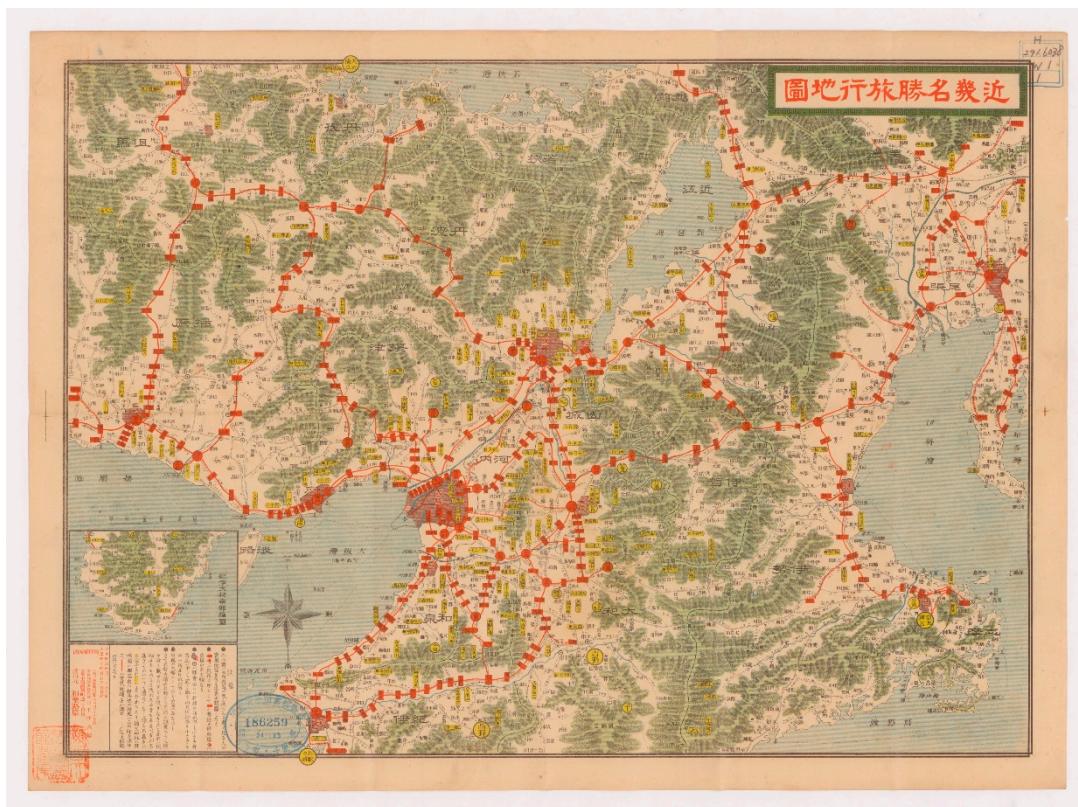
観光地については、「注意」で「さて名所古蹟の見物すべき所は調査のうへ精々詳しく載せたれども限りなきことなれば瑣細なるものにて洩れたる者あるべきが名高きものは一つも遺すことなし」と、地図の優秀さを誇る。特に名高い名所は黄色地の○、その次は黄色地の細長い○で囲み、神社、仏閣、温泉、その他の名勝地を、それぞれ記号で示す。

長い移動には、この地図は役に立ったことであろう。一方、大阪市内の名勝地は天王寺、造幣局と「金城」（大阪城）、奈良を見れば、二月堂、大仏、「春日」、名古屋は「金城」（名古屋城）と熱田神宮、都市部の名勝地が少ない。京都はさすがに、神社仏閣が名を連ねる。和楽路（わらじ）屋の地図と言えはすぐれもので、都市部は別途販売の地図を購入あれ、ということだろう。

この地図の全体を見れば、大正初年には主要な鉄道網が設置されていることがよくわかる、一方、現在とほぼ同じ鉄道網であることにも気がつく。このときにはまだ、長谷寺から先、三重まで路線がなく、湖西線もない。阪和線もない。現在の阪急宝塚線、京阪本線、名鉄常滑線は、「電気鉄道」の線路記号になっている。

では、観光地は、となると、これもまた、現在とほぼ同じである。今はなき観光地を探し出すのも、おもしろいだろう。駅名が現在と異なるのも、興味をそそる。南海高野線に「西村」という駅があり、どこかと調べれば、現在の「初芝」駅という。

鉄道も、今日ほどの速さも本数もなかったのだから、旅行は不便といえば不便、実にのんびりしていたはずだ。バスも走っていない。車もそう簡単には利用できない。そう思いながら、100年前の旅程を想像する楽しみを与えてくれるのが、この地図である。



・大阪市近辺



・南大阪近辺